

令和5年度 学校自己評価システムシート(山口学院 埼玉平成高等学校)

目指す学校像(ミッション)	「文武両道」を実践し、新しい時代、新しい分野を切り拓く心豊かなリーダーを育てる進学校
---------------	--

本年度の重点目標	1 自己学習力の強化 (学習時間・読書の定着、資格取得への取り組みの強化)
	2 進学指導 (指定校入試依存からの脱却、大学入学共通テスト受験を見据えた授業)
	3 部活動・自治活動の充実 (部訓整備、リーダーの育成、生徒主体の「生徒心得」の作成)
	4 教員研修 (外部研修、校内研修の実施、オンライン授業への迅速な対応及びビデオ教材の充実)
	5 募集活動を全体的に見直ししながら定員確保を最重要課題として取り組んでいく。

評価	達成度
A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	改善の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

＜自己評価委員会＞	
学校関係者	3名
内部委員	14名

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標					年 度 評 価 (2月13日現在)			学 校 関 係 者 評 価	
---------	--	--	--	--	---------------------	--	--	---------------	--

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
----	-------	------	-------	------	---------	-----	------------	-------------------	--

1	<p>(自己学習力の強化)</p> <p>「自ら主体的に学ぶ」ことを実践し、将来に必要なスキルを身につけさせる必要がある。授業も生徒が能動的に学び、基礎学力の向上を目指し学習習慣の定着を図る。</p> <p>全クラスにモニターが設置され、また全生徒にクロームブックが導入されたが、授業によっては活用の機会が未だに少ない状況である。クロームブックの活用を推進していき、自学の一助とし学習時間の確保を促す。</p> <p>「英語の4技能」への取り組みと同時に、英語検定にも力を入れている関係で6割の生徒がいずれかの級を取得している。その一方で数検漢検では受検者が少ない。受検をさせることにより意欲的に知識を深めさせる。</p>	<p>『教わる』から『学ぶ』へ授業への意欲的な参加</p> <p>学習時間の確保</p> <p>自己課題への意識的な取り組み</p>	<p>・生徒自身の考えをしっかりと発言できる授業を展開する。</p> <p>・生徒が興味関心をもてる授業展開を心掛け自ら学ぶ意識を持たせる。</p> <p>・個々の生徒に自分の弱点、課題を見つけさせ、その改善の道筋をつける。</p> <p>・自学の計画を立てさせ、クロームブックを活用し学習の効率を上げる。</p> <p>・英検やGTEC等の資格試験対策とその結果の分析と活用を引き続き行い、英検については準2級以上の全員取得を目指す。</p> <p>・数検、漢検については授業内に限らず各学年での声掛けの徹底をする。</p>	<p>・積極的な発言等が見られたか。</p> <p>・自分たちで問題提起をし、解決策を考え出せたか。</p> <p>・生徒が自身に課題を課すことが出来たか。</p> <p>・週間・月間で学習時間を確保しているか。</p> <p>・生徒全員の検定試験で級の取得</p> <p>・検定試験の準2級以上の取得</p> <p>・受検者数、取得者数が向上したか。</p>	<p>・全生徒にクロームブックが導入された事により、ICT教育により一層力が入ってきている。授業内では書く事よりもしっかりと話を聞き、何が大事なのかをより考える様になり、積極的な発言も多くなった。</p> <p>・休み時間や放課後にクロームブックを利用し、宿題やその日の授業内での疑問点を調べたりと有効活用している。</p> <p>・英検に関しては準1級、2級、準2級と順調に合格者数が増えてきている。その一方で数検、漢検では十分な受験者数が確保出来ずに試験を中止にする回があった。</p>	A	<p>・クロームブックの利用は便利ではあるが、それだけに便り過ぎない授業展開も必要である。</p> <p>・クロームブックの活用方法の構築。</p> <p>・勉強する環境の一環としてソフトの導入も検討が必要。</p> <p>・英検以外の件には各教科だけではなく、全教員での呼びかけ、取り組みが必要である。</p>	<p>この高校を卒業した後、どのような道が開かれてくるのか、入学時のオリエンテーションでおこなってほしい。</p> <p>卒業生の力を借り、将来の展望が見えるような取り組み。「私にも出来る！」</p> <p>クロームブックの活用は素晴らしい成果である。</p> <p>検定に対する取り組みはもっと外部にアピールしてもいいのではないか。全校をあげての取り組みは素晴らしい成果を生んでいる。</p>
---	---	--	---	--	---	---	--	---

2	<p>(進学指導)</p> <p>進路希望調査の結果にも顕著だが、2年次後半、あるいは3学年になってからも希望進路を具体的に打ち出せない生徒が少なくない。そうした生徒は「有名だから」「家が近いから」「親が言っているから」など、安易な理由で学校選びをしてしまう事が多く、非常にもったいなく感じる。したがって、『進路の日』や各種ガイダンスを核とした日常的な進路への意識づけを行い、生徒が「行ける学校」ではなく「行きたい学校」を早期に見えてくるようにする。</p> <p>昨年度の大学・短大・専門学校への進学率は約92.3%であった(大学68.8%・短大4.7%・専門学校18.8%)。しかし、大学進学者の63.6%が学校推薦型選抜(指定校)での合格であり、残念ながら国公立大学への合格者は1名(埼玉大学)という結果に終わった。進学実績の向上を実現するための昨今の課題は、指定校に頼った進路選択からの脱却である。また、新たな枠を獲得していくためにも、一般選抜はもちろん公募制推薦や</p>	<p>進路室の充実</p> <p>各クラスへの情報提供</p> <p>『進路の日』</p> <p>各種ガイダンスの充実</p> <p>一般選抜や大学入学共通テスト受験への指標となるような各種データの整理と分析、授業展開</p>	<p>・生徒の目に触れるところに情報があること、あるいは生徒がどこに行けば有益な情報があるかを知っていることは非常に重要である。したがって、進路室周辺を常に整備して最新の情報を提供するとともに、高校生が興味関心を持てるよう心がける。</p> <p>・進路行事が特定の学校の宣伝で終わらないようにし、オープンキャンパス等で実際に自分の目で学校を見ること、リサーチを重ねさまざまな学校を比較検討することの大切さを知ってもらう。</p> <p>・大学進学者の在学中のデータを入試形態別に分析し、その結果と紐づけて、指定校推薦に限らず多様な進路選択ができるシステムを構築する。</p> <p>・大学入学共通テストに顕著なように、近年の入試はより実生活に活かされるような、問題読解がカギとなる傾向に大きくシフトしつつある。各教科の授業においても知識編重となるのではなく、生徒に</p>	<p>・生徒が本校を卒業する際に、どれだけ納得のいく進路活動ができたか。どれだけ自己実現ができたか(進路指導への満足度)。</p> <p>・近隣の学校、指定校枠がある学校に限定されず、多様な学校選びができていくか。専門職大学の希望者数なども注視したい。</p> <p>・一般入試を基軸とした進路指導に向かうにあたって、有用なデータが作成できたか。</p> <p>・大学入学共通テスト受験の意義を認識し、実際に受験する生徒はどのくらいいたか、またその結果はどうであったか。好成績を残した生徒にとって、普段の授業がどれ</p>	<p>・生徒が自らの意志で、目的意識を持った進路選択ができるよう指導を進めた。結果として今年度は総合型選抜を積極的に受験する生徒が多く見られ、指定校ありきの進路選択から変化の兆しが窺えた。</p> <p>・本校の進路指導の中核にある『進路の日』においては進路漫才など新しい試みを導入し、生徒たちから良いリアクションを得ることができた。</p> <p>・1学年のLHRを活用して進路室ツアーを実施した。進路室の活用方法を早期に周知し、気軽に資料の閲覧や進路相談に出来るような環境を整備した。</p> <p>・大学入学共通テストの受験者は22名で、昨年度を下回った。受験者数は年々下降傾向にある印象だが、各種メディアで「共テスルー」という言葉が取り沙汰されたことに顕著なように、共通テストの存在自体が過渡期にあり、年内入試重視の流れができてつつある中で、最新の入試トレンドがダイレクトに反映された結果ともいえる。</p>	B	<p>・生徒に提供する情報の量と精度はもっと高められる余地がある。担任の先生方の指導に依存するのではなく、進路指導部としてこまめに学習の意義を発信し続けることで模試を漫然と受験する生徒が多い現状に一石を投じていきたい。</p> <p>・埼玉医科大学および短期大学へのツアー、帝京大学の校内講座を実施したが、こうした仕掛けが受け身だった感は否めない。次年度はもっと新たな企画を立案・実施していく。</p> <p>・長期休暇中に行われる補講に関してはやや不満が残る。教科に偏りがあった点は否めず、ラインナップも生徒の多様なニーズに応えたとは言え難かった。各教科で基本となる</p>	<p>現代の高校生にとって、「成功体験」の獲得こそが1番のモチベーションになるのではないか。検定での合格は、一種の成功体験になる。</p> <p>大学の見学ツアーは素晴らしい取り組みである。夏休みなどに実施している各大学が主催するオープンキャンパスは。運動部員などはなかなか参加できないので、このような機会は有難い。</p> <p>進路の日の取り組みはとてもよい。進路行事は各学期に1回以上あってもいいのではないか。</p>
---	---	---	---	---	--	---	--	--

	<p>や総合型選抜での合格者を増やしていく必要がある。また、漫然と受けている者が少ない模試を全生徒が真剣に取り組み、難関校の一般選抜にも対応できる「真の学力」を養えるようにするため、推薦と模試の成績の紐づけをしていきたい。</p>	<p>本校生徒の実情に合った模試の選定と、受験に向けての意識づけ</p>	<p>出来る限りアウトプットさせ、思考力や表現力を養える授業を展開する。 ・模試の結果から同世代における立ち位置を認識させつつ、国立大学を筆頭に難関大学も総合型選抜を含め可能性が大いにある事を認識させる。</p>	<p>くらい役に立ったのか。 ・難関校の総合型選抜受験者がどのくらいいたか。「推薦を受けられないから総合型」というのではなく、あくまで前向きに挑戦した生徒についてリサーチする。</p>	<p>学校推薦型選抜(指定校)の利用者は依然として多く、この状況を変えるのは容易ではないが、先に述べたように総合型選抜や、公募制推薦など別の受験方法を選ぶ生徒が例年より多かった印象があり、行きたい学校に行くための手段をフル活用するという点はポジティブにとらえることができる。</p>	<p>科目をカバー(例えば数学Ⅰ～Ⅲ・A～C、地歴公民で日本史・世界史・倫理・政治経済など)し、さらに応用・基礎講座を用意できれば良い。また、勉強合宿についても、S特進以外のコースからの参加者を増やしたい。</p>
3	<p>(部活動) 全校生徒加入制を取っている。特に運動部活動では全国や関東大会に出場するなど、大きな成果が出ている。しかし、その反面、強制的にどこかに加入する必要があり、活動の少ない部活動になんとなく所属している生徒が多数おり、全員加入制の意義を見直す必要がある。また、それぞれの部活動が単独で活動するだけでなく、学校全体を盛り上げていくことに寄与するような取り組みを検討する。文化部のより活発な活動が望まれる。 (自治活動) 生徒会本部役員が中心となり、実施している行事はあるものの、生徒たちの意見が反映されているというよりは教員の手伝いになっている感は否めない。計画段階から生徒主体の意見が活発になることが望まれる。 より自治活動を活発にするために、生徒指導部主導の「生徒心得」から建学の精神、校訓に基づいた生徒会本部役員が中心になる「生徒会員心得」を作成し、埼玉平成の生徒として自信と誇りをもった行動の規範となるようにしたい。</p>	<p>部活動の存在意義について考える機会の創出 ・それぞれの部の活躍が学校全体のこととして認知されている。 ・生徒が意見を言えるような環境作りが整っている。 ・生徒会本部役員が意見を活発に交換し合うことができている。</p>	<p>・各部活動の活動状況、生徒の参加状況などを把握する。また、活動の少ない部の生徒が活動日以外にどのような時間の使い方しているかを調査する。 ・壮行会などを通して他の部活動がどのような雰囲気で行われているかを知るきっかけとする。 ・各クラスに設置されたモニターを活用し、各部活動のPR機会を作る。 ・活動内容を常に生徒のやる気や動機づけになっているかチェックする。 ・生徒会本部役員による「生徒会員心得」検討委員会を立ち上げる。 ・生徒会本部役員の会議が定期的に行われる環境を創る。また、生徒会本部役員と教員、会員との間でも意見が交換できるような機会を創出する。 ・クラスルームを活用して生徒会活動の状況を配信する。</p>	<p>・全校生徒加入制の正確な現状をアンケート等を通して把握することができたか。 ・一定の部に限らず幅広い部活動が全校生徒に認知されたか。 ・生徒会本部役員主導による行事が実施されたか。 ・生徒会本部役員の会議が定期的に行われたか。 ・「生徒会員心得」が作成されたか。 ・校訓の「自律」が自覚されてきたか。 ・クラスルームが活発に活用されたか。</p>	<p>・今年も多く部の部が全国大会や関東大会へ駒を進めた。部活動への参加実態については転部者の実態は数字ではおえているが年度末に行う監査にてより実態に近いものを把握したい。 ・壮行会、入部期間等に紹介動画を流すことにより、今までよりも部の活動が可視化されたように思われる。 ・生徒議会が開催され、生徒心得についての議論を行うことができた。今年度は1回限りとなってしまったが0が1になったという点では大きな一歩であると考えている。 ・生徒会本部役員の会議は週に1度行い、学校生活の充実に向けて有意義な話し合いが定期的に行われていた。</p>	<p>B ・より実態にあった活動を行えるよう制度を見直す必要があると感じている。1人で1つの部活動を受け持つというのは安全面等含めて改善が必要ではないか。 ・今年度行ったことでノウハウはできたので次年度はこれを全体に普及させていきたい。 今後はこのような議会が継続的に行われ、話し合いの内容をより充実させていくことが望まれる。 生徒会本部役員の中での決定事項が実施されるまでに時間がかかってしまうことが多く、自治活動としての裁量権の幅を拡大していきたい。</p>
4	<p>(教員の研修) 日頃から生徒の学習状況に応じた指導をを心がけている。教材研究はもとより、全教室にモニターが設置され最大限活用できる授業を各教科内で研鑽をしている。また、一般受験を見据えた授業展開の構築のため、教科内で授業の相互参観による意見交換や、入試情報分析の情報共有を行っている。</p>	<p>教科間の研修、外部研修会への参加。</p>	<p>・授業力向上のために、外部研修に積極的に参加する。 ・相互授業参観を随時実施し、自身にないスタイルを身につけ、授業の質の向上に繋げる。</p>	<p>・外部研修に関する情報を共有し、周知と参加が徹底できたか。 ・相互授業参観をし、教科内研修を行えたか。</p>	<p>・ICT教育を進めるうえで、クロームブック、設置されたモニターの有効活用を教員間で情報共有できていた。 ・各教科間では、相互参観は少ないが意見交換や情報共有は活発に行われていた。</p>	<p>B ・教員間での情報共有はできているが、外部での研修会への参加がやはり必要である。積極的に参加を促したい。</p>
5	<p>入学者数は253名にとどまり、募集定員を大きく下回った。(97名定員割れ) 生徒募集の数値目標を以下のように設定し、その実現に取り組む。 ・志願者数目標 1,500名 ・入学者数目標 350名 ・中学・塾回り 延べ 2,000教室</p>	<p>定員確保を最重要課題とした生徒募集、広報活動</p>	<p>・中学、塾への訪問やHP、メール等を通じた、本校の情報提供の回数の増加。(SNSなども積極的に開設し、利用する) ・入試目安や特待制度、試験の内容を見直し、中学生が受験しやすい状況を作る。 ・中学生とその保護者に、より本校に興味、関心を持ってもらえる募集行事の企画・実施。 ・HPの継続的な改良。投稿・更新頻度をあげる。</p>	<p>・中学・塾への訪問回数 ・HP、メール等での情報発信数 ・募集行事への参加数 ・北辰テストの志願者増 ・入試志願者の延べ数 ・入学者数</p>	<p>・受験生、単願者ともに昨年度より数を減らすこととなり、目標である定員350名の達成には厳しい状況である。 ・進学実績、施設・設備など本校独自の特色を打ち出すことができなかった。 ・個別相談にPCを導入するなど、募集行事の運営そのものの精度、完成度は年々良くなっており、来場者アンケートでも来場者の満足度は毎回高かった。 ・Instagramの開設、ブログの更新頻度の向上など、SNSを活用した広報活動に注力できた。</p>	<p>B ・創立40年の伝統を礎とした本校にしかない特色や強みを明確にし、それをさまざまな媒体や手法を駆使し広める。 ・HPや動画を見て興味を持った受験生が実際に本校に足を運び体験してみたいと思わせる仕掛けとイベントを考案する。 ・募集イベント、既存の広報WEB媒体の充実</p>

埼玉平成高校にとって、部活動は1番の宣伝材料であって、またとても頑張っている印象である。
自治活動を充実させ、目標を高く持った生徒を育てて欲しい。生徒会活動は生徒の意見を尊重することが大切だ。

部活動は指導者の高齢化を感じる。若い先生の育成にも力を入れて欲しい。

部活動の全員加入性は見直す時期になっているのではないかと感じている。
クラブ数を整理し、顧問2名制の必要を感じる。

生徒会活動の中で、他校との交流はあるのか。生徒会本部も他校と交流し、刺激し合っているものをつくってほしい。

外部研修や教科内研修をもっと強化してほしい。ベテランの先生の経験を若手の先生と教え合い、引き継いでいけるようなしくみ。先生方のスキルアップのためにも校内研修制度は充実させてほしい。
生徒のメンタルケアなども大切である。教員間の情報共有が適切に行われること。

少子化が進む中、受験生は何を求めて高校に来るのか、進路実績だけではないはずだ。5年後、10年後を見据えて、計画性を持って取り組む課題だ。

目標はあるが、それを達成するための策が必要だ。運動部というコンテンツをどう生かすか
アピールする情報はもっとあると思う。広報誌などもネット上にアップするなど、たくさんの目に触れるようにしてほしい。

施設・設備への投資が必要である。